

LMI 世界宣教会近藤恵宣教師会計報告 (09年1月～3月)

		1月	2月	3月
収入	近藤恵宣教師指定	204,900	169,500	272,000
	雑収入	0	634	0
	前月繰越金	821,074	991,186	1,144,580
	合 計	1,025,974	1,161,320	1,416,580
支出	近藤恵宣教師支援金	0	0	0
	語学研修費	0	0	0
	年金・支える会経費	14,788	740	5,275
	LMJ事務局費	20,000	16,000	27,000
	次月繰越金	991,186	1,144,580	1,384,305
	合 計	1,025,974	1,161,320	1,416,580

※宣教師支援金、語学研修費は前月までの送金でまかないました。

献金者お名前

(教会) 足尾キリスト教会、泉キリスト教会、岩井キリスト教会、青梅東宣教キリスト教会、大泉聖書教会、大磯キリスト教会、神栖めぐみキリスト教会、かもい聖書教会、行田カペナント教会、興戸キリスト教会、自治医大前キリスト教会、下館キリスト教会、湘南ライフタウンキリスト教会、菅生キリスト教会、橋本キリスト教会、蓮田キリスト教会、日立福音キリスト教会、本郷台キリスト教会、前橋キリスト教会、水戸下市キリスト教会、宮崎北聖書キリスト教会、武蔵台キリスト福音教会、横浜永谷キリスト教会、横浜緑園キリスト教会

(個人) 阿部徳子、池田美栄子、池田百合子、井上稲子、岡本英次・真奈美、香川聖恵、国井昭男、倉持芳、栗田カツ子、西條晴美、斉藤眞木子、塩澤幹雄、芝田寛二・正子、武田香、立石哲・早苗、田中泉、豊田光子、中井靖子、長谷川昭雄、本田恵、三浦健治、光畑京子、湯澤邦夫、自治医大前キリスト教会個人、匿名

(敬称略)

尊い献金をありがとうございました。

編集後記

私たちの思いをはるかに超えて素晴らしいことをなしてくださる神は、時に私たちに不安を与え、信仰を試します。すべてが御手の中にあり、不測の事態も良いことに変えてくださる神を信じることができるのは、何という恵みでしょう。(ひ)

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。(ローマ8:28)

連絡先: 〒329-0403

栃木県下野市医大前3-7-1
近藤恵宣教師を支える会
(自治医大前キリスト教会内)

Tel&Fax: 0285-44-7564

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/meg/>

E-mail: meg0_02007@yahoo.co.jp

郵便振替払込

口座番号: 00110-1 番号: 91993

加入者名: LMI世界宣教会

通信欄: 近藤恵宣教師指定献金

近藤恵宣教師ニュースレター NO.8

2009. 4. 19

発行: 近藤恵宣教師を支える会



神様の手のもの

小さなえいじつ

わたしは神の手の中にある小さな鉛筆のようなものです。神が考え、神が書くのです。鉛筆は何もしません。鉛筆はただ使われるだけです。
(マザー・テレサ)



まことに主は、あなたのために、御使いたちに命じて、すべての道で、あなたを守るようにされる。
(詩篇91:11)

みなさま、お元気でお過ごしですか？日本は春本番となっているのでしょうか？バングラデシュでは、2月中旬からもう春です。といってもその頃には、すでに気温は25度を超えているので夏の感じです。でも古い葉にかわって若葉が出てくるので、やはり春なのだとわかります。私は今、バングラデシュの北Dinajpurに滞在しており、ダッカよりは随分涼しいのですが、それでも30度くらいはあります。

この地で1週間の半分をミッション・コンパウンドで、半分をLAMB Hospitalで過ごしています。たくさんの新しい経験の中、上記のみことばのように、主は私をしっかりと守ってくださっています。皆様のお祈りとささげものを感謝いたします。

Dinajpurの地で

3月初旬にバングラデシュの北にある^{ディナジプール}Dinajpurにやってきました。この地にミッション・コンパウンドがあり、この中には100年前にイギリスの宣教師が造った宣教師館があります。このコンパウンドの中には他に、教会、学校、男女の寄宿舎、ここで働いている人たちの家などがあります。中心は大きな草地となっていて、夕方には男の子たちがサッカーをしています。緑の豊かな、そしてとても平和なところです。

ここに週のうち水曜の夜から月曜の朝まで滞在し、月曜から水曜の夕方までは、^{ラムホスピタル}LAMB Hospitalで過ごしています。ここにいる間は、家庭教師にベンガル語を教えてもらっているのと、木、土、日曜日は、コンパウンドの中の学校に行っています。主にKGと呼ばれる6歳



イギリスの宣教師が建てた学校に通う子どもたち。近藤宣教師もこのクラスに出席する。

の子どもたちのクラスで一緒に過ごしています。最初子どもたちの言っていることが全く理解できず、ある女の子に「ちっともわかんないのね。」と言われ、さらにその子は、ベーというような顔をし、私はこのクラスでいじめにあったような気分でした。でも今は慣れてきて、休み時間には「シスター、一緒に走ろう!」と言われて、子どもたちと手をつないで一緒に運動場を走るはめになっています。このクラスのいいところは、先生が子どもたちに命令形の言葉、例えば「本をあげなさい。」とか、「家でこれを見せるのよ。」などを何回も繰り返して言うので、簡単な動詞の使い方がわかってとても良い勉強になるところです。私にベーという顔をしたこの女の子は、今では「ほらここに書くのよ。」とか、「先生に‘Thank you. teacher.’って言うのよ。もっと大きな声で!」などと言って、よく私の面倒を見てくれています。

学校以外でも、ここの人たちはあまり英語がわからないので、良いトレーニングになっています。このコンパウンドの中の人たちが、みんなで言葉のできない大きな子どものような私を育ててくれている感じです。

LAMB Hospitalで

^{ラムホスピタル}LAMB Hospitalでは、今働いているアメリカ人の外科医ボブ先生のもとで、外来、病棟、手術室で彼の仕事を見せてもらっています。彼は長い間、アフリカで医療宣教師として働いていた人で、とても経験があり、良い勉強になっています。もう70歳近いのですが、とても精力的に仕事をこなしています。

ある日、外来に足や腕にたくさんの皮膚潰瘍のできた若い男性がやってきました。話を聞くと、インドで薬の密売の仕事をしていたようで、彼自身も数種類の薬物を使っているようです。やせてうつろな目つきをしている彼を、ボブ先生は入院させることにしました。薬物をやめる約束をして、彼は入院しました。外科の治療以外にも、内科の先生方に薬物の離断症状のコントロールをお願いしました。また、病院のチャプレンが彼に、救い主イエス・キリストを伝えました。週1回の病院の祈祷会でも彼のことを、みんなで祈りました。幻覚で悩まされる辛い時期を乗り越え、彼の顔には次第に生気がもどってきました。そしてたくさんあった皮膚の潰瘍も良くなっていきました。まだベンガル語でコミュニケーションをするのには難しい私にも「シスター、ケモナチェン? (お元気ですか?)」と明るい笑顔で聞いてくれるようになりました。そして約1か月後に退院していったのでした。

最初は見学しているだけだった私も、次第に簡単な手術、内視鏡検査をするようになりました。でもまだまだ慣れていないので、色々なことが思うように運びません。その私を現地のスタッフは、みんなで協力して助けてくれています。冒頭のみことばが本当に実感できる気がします。この国の人たちのために働いているというよりは、働かせていただいているというのが本当です。早く実際に役に立つ仕事ができるように、また、自分の口を通してみことばを伝えることができるようになりたいと思います。

Prayer request

1. ベンガル語の学びのために。(9月までは、語学の学びが中心です。)
2. 病院での仕事に慣れるように。(4月は、週の半分を病院で過ごします。また、8、9月に今と同様な研修をすることも考えています。そして10月から病院で働く予定です。)
3. ビザ更新のため。
4. 派遣教会の自治医大前キリスト教会のために。
5. 母と姉の救いのために。